

〔甲陽軍鑑品第六〕一 武田信玄晴信公、十三歳の御時、駿州義元の御前は、信玄のあね子にておはします、此姉子の御方より、母公へ貝おほひのためにとて、蛤をおくりまいらせらるゝ、信玄公を勝千代殿と申時なれば、御母公より、上膚をもつて、此蛤の大小を扈從どもに申付、忍りわけて給はれとの御事也、即大をばえりて、まいらせられ、小き蛤たゞ、み二帖敷ばかりに大方塞り、たかさ一尺も有つらん、是を扈從どもにかぞへさせ給へば、三千七百あまりなり、其時諸士參候せしに、此蛤は何程あらんと問せ給ふ時、各有功の人々、二万或一万五千など、申す、勝千代殿仰らるゝは、人數は多くなき物ならん、五千の人數を持人は何をいたさんも、まゝなりと仰られしを、きくほどごとの人、したをふるはぬ者はなし。○下略

〔先哲叢談〕野中止、字良繼、小字傳右衛門、號兼山。○中略

嘗來江戸、及歸期也、致書鄉人曰、土佐無物不有、自江戸齋歸、惟有蛤蜊一艘耳、海路幸無恙、以歸日饋之、衆以爲嘗異味、計日待歸、既至、則命投其所漕於城下海中、不餘一箇、衆怪問、兼山笑曰、此不獨饋諸卿、使卿子孫亦飫之也、自此後、果多生蛤蜊、遂爲名產、衆始服其遠慮。

〔新撰字鏡〕虫蚶鯖同、大舍反、字
牟支、又豆比 蠕牟支反、字螺牟支、又腹赤虫、字 嫣牟支反、字

〔本草和名〕蟲魚海蛤、一名魁蛤、一名綈耳蛤、和名字。牟岐乃加比。

魁蛤苦廻反、一名魁陸、一名活東表有文、已上本條、已又有蚶呼治體相似而圓音、一名伏老伏翼化成、出拾遺

〔倭名類聚抄〕十九海蛤、本草云、海蛤一名魁蛤和名字無蘇敬注云、亦謂之綈耳蛤也。

〔箋注倭名類聚抄〕八海蛤、按海蛤狀詳下所引本草注、魁蛤卽上條蚶、即是、則二物不同、說文亦謂蛤有三、一牡蠣、一海蛤、一魁蛤、本草統言之耳。○中略按加比有二義、一則介蟲之總稱、一則皮甲也、故本書貝殼並訓加比、海蛤入藥用殼、故輔仁云、字无岐乃加比也、新撰字鏡蚶螺竝訓字牟岐、景行紀白蛤傍訓亦同、皆不云加比、則輔仁所訓字无岐乃加比之爲殼可證也、源君不察漫從輔仁所訓、非是。